

第6回南砺市立保育園審議会会議録

| | | |
|-----|---------------------------|------------------|
| 期 日 | 平成19年12月17日(月) 午後7時～8時25分 | |
| 会 場 | 南砺市福野庁舎2階201会議室 | |
| 出席者 | 宮田 徹 会長 | 岩田 繁子 副会長 |
| | 中田 勝治 委員 | 浅田 裕二 委員 |
| | 水木 猛 委員 | 嶋 信一 委員 |
| | 金田 悦子 委員 | 江川真理子 委員 |
| | 窪 有美子 委員 | 柄崎 篤香 委員 |
| | 高輪 映子 委員 | 南 尚三 委員 |
| | 横川 正希 委員 | 寺井 孝夫 委員 |
| | 中藪 淳一 委員 | 得能 金市 委員 |
| 欠席者 | 小林 敏夫 委員 | 川上 優香 委員 |
| | 梧桐 朋恵 委員 | 古瀬美奈子 委員 |
| 市当局 | 清都 副市長 | 山本 収入役 |
| | 上田 民生部長 | 森田 民生部次長(児童育成課長) |
| 事務局 | 岩見 児童育成課主幹・保育園係長 | |
| | 小橋 同係副主幹 | 斉藤 同係主査 |

会議内容

(開会)

| | |
|-------|---|
| 清都副市長 | 本日はお忙しいところご出席いただきありがとうございます。開会に先立ちまして先般の南砺市民生児童委員協議会会長が定村さんに代わり得能金市さんが就任されました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。一言ご挨拶をいただきたいと思ひます。 |
| 得能委員 | 先の12月7日の南砺市民生児童委員協議会理事会におきまして会長に就任いたしました得能です。若輩者ですがよろしくお願ひいたします。 |
| 森田次長 | それでは、会長より審議会の進行をお願ひします。 |
| 宮田会長 | お忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。本日は第6回審議会となります。事前に資料を配布していると思ひますが、これを中心に進めたいと思ひます。協議事項は「答申の骨子・範囲について」としておひます。前回の審議会では審議会としてのまとめ方について協議いたしました。「保育サービスのあり方」「実現するための基本条件」等「中間報告案」の前半については協議を終えてご了承いただひておひます。後半の「統廃合における規模」「どんな形でどこまで纏めるか」等の審議会としてのまとめに関し、会長私案として地域毎の数を示しました。本日再度、私案をたたき台とした「今 |

後の保育園のあり方」を中心に進めていきたいと思います。それでは事務局から資料の「今後の保育園のあり方」について説明をお願いします。

森田次長
宮田会長

「今後の保育園のあり方」を資料に基づき説明。

審議会の答申とするのか、提言とするのか検討中です。

「1. 保育園の規模について」ですが、園児数は今迄の話し合いの中に出ているが、ご意見はありますか。(なし)

「2. 保育園の数について」ですが、井波・福野・福光地域の数を示しており、その他の地域については既に纏まっている地域等です。これは保育園の入園児数を150又は200で割った数としている。井波地域は、今年度当初の園児数256人で計算すれば1~2箇所、福野地域は380人で2~3箇所、福光地域は514人で3~4箇所である。はっきりと示すより、幅を持たせた表し方をしている。地域毎の事情もあり、地域で構成した方々により、つつこんだ協議をしてもらった方が良いという主旨です。保育園数や考え方について委員の意見を伺いたい。

上田部長
委員

審議会としては、幅を持った答申ということで検討いただきたい。

保育園の数についてですが、各地域の保育園数を示さないで、「1 保育園の規模について」の中で150人から200人程度の保育園規模が望ましいとだけの表現ではどうか。地域の方々で考えないといけない。ここで数を示してしまうと地域調整がむずかしくなるのではないか。

上田部長
宮田会長

結果的にはこの数になるのではないか。

地域の事情もあり、保育園数は示さないということでしょうか。皆さんどうでしょうか。

委員
宮田会長

規模のみの表現にして、数は各地域で検討することではどうでしょうか。

審議会の位置づけは、「決定する」のではなく「案を示す」ということではないでしょうか。案として示すことでどうでしょうか。

委員

保育内容の充実を図るために大規模にするのであり、保育士や栄養士を含めた職員を充実することも示した方が良いのではないか。

森田次長

保健師・看護師の配置は0歳児9人以上であれば義務付けであり、6人以上であれば望ましいということです。これは国の指針であり、それに従って配置しております。市内保育園には栄養士が2名おり、栄養士が統一献立を作成している。保育士数は園児数により人数が決定し、他に延長保育や一時保育等の特別保育を実施していればそれに見合った保育士が増員される。正職員で対応できない場合は臨時職員を雇用している。

宮田会長

保健師・看護師の配置は園児数により必要となるものであり、保育園が大きいから必要という訳ではない。

委員

この段階で数を示さないで地域での検討事項としてはどうか。

- 宮田会長 論点は、今後の地域の協議を考えた場合、審議会として数を示すべきかどうかということのようだ。
- 岩田副会長 地域には、地域毎にいろんな思いがある。これからの事を考えると地域に対し「保育園のあり方」を説明、助言していくべきと思う。地域の事情ばかり考えるとうまくいかない。保護者の方々はどのように思われますか。
- 宮田会長 今は変化を求められている。他方、地域の特殊事情もある。規模と数を示し、スムーズに地域の協議につなげていければよいのだが。
- 委員 城端は一つの大きな保育園になった。感染症問題ひとつをみても、あまりに大き過ぎると思う。
- 委員 地域の方々は「自分達の地域の保育園を残したい」との思いばかりで、本来の保育園のあり方を検討されない。協議会の構成は各階層から出してほしい。地域に精通した人材を広く集めて欲しい。建物は改築ではなく、新築にして欲しい。検討期間を充分取り、急いではいけない。
- 清都副市長 基本的には新築になると思われます。地域の協議では逆行する意見も多く出ると懸念される。審議会でも地域協議のベースとなる方向付けをしていただきたい。
- 宮田会長 審議会として、言われるようなベースを示さなければならない。保育園数を示し、「その他地域の実情を勘案する」と付け加えることでどうか。
- 委員 数は書かない方が良いのではないか。
- 委員 審議会ですっかりここまで検討したのだから曖昧な「望ましい」とか「考えられる」という表し方ではなく、はっきりと表した方が良い。幅を持たせた表現ではなく、〇〇地域1箇所、〇〇地域2箇所とはっきり示すべきではないか。幅を持たすと逆にいろんな憶測が飛び交ってまとまらないのでは。
- 委員 統合した場合、保育園を選べるのでしょうか。園児数が偏って多い保育園と少ない保育園ができると思うし、希望の園に入れないケースもでてくるのでは。
- 宮田会長 保育園は小学校のような校区制ではなく、勤務先や各家庭の都合で地域外や市外から入園する園児もいる。
先ほどから、賛否両論でているが、数を示さないのも審議会としてどうかと思います。「地理的条件、地域の事情を勘案して」と付け加えながら示していけばどうか。
- 委員 幅を持たせた表現だと、トータルの保育園数に差があり過ぎないか。
- 委員 井波地域のことですが、井波地域の保育園数は1~2箇所となっており、そうになると2箇所は古いが、3箇所の保育園は新しいので壊すのはもったいない。建物はどのようになるのか。

宮田会長 この答申でどここの箇所というように決定するのではなく、各地域の協議の中で決めていくということです。

清都副市長 使い道がある建物は壊さなくても良い。井波地域には平成に入って建設された建物が3箇所あるが、保育園の統合は1~2年で全部実施できないし、学校や体育館等多くの事業があり、合併特例債終了の26年迄にできるかどうかとも言えない。26年以降も続けて実施していかなければならないので、この時点で後の利用についての論は早いと思う。例えば、現在、休園中の福野高瀬保育園の利用はどのようになっているか。

委員 統合保育園建設後における従前の保育園の活用については城端地区がお手本と思う。福野高瀬保育園は休園となっているが、婦人会と老人会が水道等の超過料金は負担する形で使っている。地域で利用できる建物として残してもらいたいと思っている。

委員 城端地域の不要となった保育園舎は3箇所壊した。

委員 シルバー人材センターや地区公民館として利用している。

委員 所有は市であるが、地域内の各戸で負担金を徴収して管理は地元でしている。大鋸屋地区はうまく利用されている。放課後児童を預かったりもしている。

岩田副会長 一度に建設できるものでもなく、少子化も益々進んでいくかも知れない。

委員 地元負担にも限度があるので、公の施設としての位置付けを希望したい。

宮田会長 保育園の数は「望ましい」という書き方ではなく、将来的な案としてこのようになるという表現ではどうでしょうか。

委員 時間をかけて検討したのだから、数は示した方が良いと思われまます。地域協議の中で現実にそうなるかどうかは判らない。多少違った形になってもいいのでは。余りそれに惑わされない方が良い。

委員 最大値を示す方法もある。

清都副市長 地域で検討される場合はもっと突っ込んだ議論が予想される。審議会の立場からいうと検討の結果として数の目安は示すべきでないか。

宮田会長 決定事項ではなく、あくまでも目安だが、審議会の議論の結果として示すべきでは。若干付け加えて答申することでしょうか。

岩田副会長 会長も長期的な展望に立って出された数と思う。

委員 「1. 保育園の規模について」「2. 保育園の数について」を一緒にすればどうか。

委員 表現の仕方はこれで良いと思う。規模に基づく保育園数である。

宮田会長 「1. 保育園の規模について」「2. 保育園の数について」「3. 保育園数、箇所付けの具体的な検討方法について」この表現で案を作成したい。「2. 保育園の数について」には文言を付け加える。「民営化」については今後の検討課題とする。これも付け加えたいと思うが、それでよいか。

では、今後のスケジュールについて説明ください。次の審議会はいつ頃でしょうか。

森田次長 今迄、審議していただいたものについて各委員にお送りします。次回は3月頃でしょうか。会長と協議してお知らせしたい。

委員 1月に開き、2月答申でどうか。

委員 2月に一気にやればどうか。

清都副市長 その後、地域組織の立ち上げの話になる。

委員 いずれにしろ最後は議会でしっかり議論願いたい。

清都副市長 「今後の保育園のあり方について」の文面を修正して委員各位に送り、ご意見を伺いたい。「民営化」については、今後検討していくという表現になると思う。2月頃に答申していただければ。それぞれの地域でメンバーを十分検討して地域協議組織を立ち上げてもらい、具体的な論議を進めていただきたい。いただきたい。この件については、「地域審議会」を窓口相談していく。平・上平地区の学校の統合は地域審議会を中心に纏めていただいた。スムーズに纏まったので、是非、これについても地域審議会に相談をさせていただきたいと考えている。

宮田会長 本日の結果を踏まえて修正したものを各委員に配布し、2月を目標に第7回の審議会を開催して、その後、答申したいと考えます。
本日はこれで終了します。

(終了 8時25分)